



なかむら・じゅんこ 大阪府出身。下井手にてバレエ教室を経営。趣味は料理。休みの日の楽しみは夫と一緒に舞台や演劇を見に行くこと

バレエスタジオ
JNダンスクラシック 主宰

中村順子さん

クラシック音楽の流れる鏡張りのダンスフロア。生徒に温かいまなざしを向けているのはJNダンスクラシック主宰の中村順子さんです。2歳から60代の約70人の生徒を指導しています。「バレエを好きになってもらえるように楽しさを伝える指導をしています」と中村さん。自身も小学4年生の時にバレエと出会い、「踊ることが楽しくてたまらなかった」と振り返ります。

高校卒業後はバレエ専門学校へと進みましたが、1年半ほどで中退し、上京を決意。全国的に有名だった余芳美先生に師事しました。「初めて踊った日から将来は指導者になりたいと思っていたので、本物に触れたかったです」

東京で8年間指導者として活動し、夫の転勤で熊本へ移住。荒尾・長洲・玉名で教室を開きます。「バレエへの情熱は消えることはありませんでした」

7年前、中村さんのもとへ、創作ステージ・ふるさと詩集*のバレエ制作の依頼が来ます。

「炭坑がテーマだったので、荒尾のことを勉強し、炭坑社宅に暮らす子どもたちの姿を音楽劇で表現しました」音楽劇は観客から好評で、「私は大阪出身ですが、地元の人たちとの縁を感じていましたし、ここにいっていいんだよと言ってもらえた気がしました」

ことし、中村さんのバレエ教室も15周年の節目を迎えます。「教室を始めて15年で、プロのダンサーを育てたいと思っていましたが、その願いもかないそうです。創作ステージでも荒尾の魅力をたくさん知ることができたと、多くの人たちとつながることもできました。続けていくことの大切さを実感していますね」と振り返る中村さん。「ことしの創作ステージのテーマは海蓬公子女です。8月には教室の15周年の発表会もあります。多くの人にバレエの楽しさに触れてほしいですね」

*文化センターの代表的な自主文化事業として、平成21年度から毎年上演されている市民参加型の舞台



1 毎年開催している発表会。この日のために生徒たちは一生懸命練習し、大人も子どもも一緒に出演します 2 シオン園保育所でのレッスン。バレエの楽しさを伝えることを大切にしています 3 平成26年度の「創作ステージ・ふるさと詩集」。出演者一丸となって荒尾の魅力を舞台上で表現しています

